

新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成

実施機関：北海道大学（総括責任者：山口 佳三）

実施期間：平成 21～25 年度

プロジェクトの概要

地域再生の実現のために、水産・海洋に関する科学技術と地域の企業や漁業者等と行政を結び、そこから生まれる知的財産の管理や起業ノウハウの能力を有する人材「水産・海洋コーディネーター」を養成する。基礎的な水産・海洋科学知識及び技術を習得し、産業や政策に結びつける知的経験基盤を養うことを到達レベルとする。規定のカリキュラムを修了し、審査を受け「水産・海洋コーディネーター」として認定する。また、構想推進の応援団として、水産・海洋科学と市民をつなぐ様々な関連事業で協働できる「海のサポーター」を別カリキュラムにより養成する。達成目標は、新産業の誘致、新しいプロジェクトの企画及び挑戦のできる人材として、プログラム終了時までにコーディネーター15名、サポーター60名を養成する。活動内容は、産業・学術・研究機関集積戦略、産学官共同研究コーディネート、観光と学術研究の融合、水産・海洋と産業・市民生活の調和等とする。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	s	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは函館市の函館国際水産・海洋都市構想と連携する取組であり、養成人数が目標を大きく超えて達成され、養成人材が水産物の商品化で活躍している点、また、活動拠点も確保され、今後の継続性・発展性が期待できることなどは評価できる。今後は、水産・海洋コーディネーターと海のサポーターが互いに連携し、本養成ユニットが北海道の水産資源活用の拠点として賑わいを生み出し、ブランド力を高める推進力となるなど、真に函館を支える人材として活躍することを期待する。また、そのために、地域外や国外への発信を進めることにも期待する。

- ・**目標達成度**：水産・海洋コーディネーター23名（目標15名）、海のサポーター109名（目標60名）とも目標を大きく超えて養成されている点は、それぞれの活躍状況とともに高く評価できる。

- ・**人材養成手法の妥当性**：人材養成の目標を明確にした上で「海のものづくりカリキュラム」と「海と人をつなぐカリキュラム」の2つを、ほぼ同数の受講者の下で無理のないスケジュールにて実施し、コーディネーターとサポーターの両人材を育成してきたことは、地域資源を十分に活用していることなどと併せて、評価できる。

- ・**実施体制・自治体等との連携**：北海道大学と函館市を中心に、道内外のいくつかの機関とも

連携してプロジェクトが運用されている点は評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：養成された人材が水産物の商品化で活躍し、新製品が 15 点以上産み出されていることとともに、本取組が地域の発展方向と適合している点は評価できる。今後は、輩出人材が水産資源の函館ブランドを最大限活用しながら、継続して活躍することを期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：函館市との連携体制を継続するとともに、養成した水産・海洋コーディネーターの力も組み入れて新規事業を展開する見通しであり、さらに運営資金も確保できていることは評価できる。今後は、21 世紀「津軽海峡文化圏」ブルー・イノベーション構築への貢献を期待する。

・**中間評価の反映**：食の安全性についてのカリキュラムを充実させるとともに自治体との連携を積極的に進めるなど、中間評価は適切に反映されている。